



すこやかさん



子供たちのよりよい生活と成長のために ～関係機関を上手に活用しましょう～

社会の変化が急激に進む中で、子供たちが直面する困難や課題はより複雑で多様になっています。そうした中、学校教育が子供たち一人一人の可能性を最大限に伸ばしていくためには、学校だけでなく地域にある関係機関の協力を得ながら、子供たちの学びと育ちを支えていくことが必要です。学校は、関係機関との連携を図るために、目的と内容を明確にすると共に、保護者との信頼関係を日頃から築いておくことなどもポイントです。

今号は、関係機関と連携して子供たちのよりよい支援を行う上で押さえておくべきポイントをまとめました。ぜひ、参考にさせていただき、先生方の日々の業務に反映していただけると幸いです。

事例を基に

このように感じたことはありませんか？

対応しているのに子供の状況が
変わらない。どうしよう…

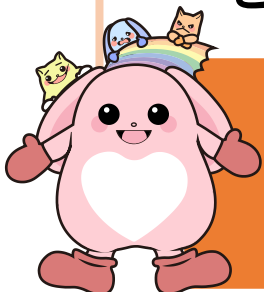
学校だけで
子供を支援するのは
難しい状況かも…



どこか
一緒に支援してくれる
関係機関はないかな？

学校は関係機関と
どのようにつながっていったらいいのだろう？

事例を基に、学校と関係機関が、
協力して子供を見守る関係を築くまでの
道のりを見てみましょう！



学校が関係機関とつながる



Aさんの変化に気付いた担任は…

担任

心配になり、Aさんに話を聴いたり、校内で情報収集をした。

Aさん：家族のお世話をしている。情緒不安定で「消えていなくなりたい」気持ちがあり通院中。
保護者：育児やAさんへの関わりに余裕がなさそう。スクールカウンセラーへの相談を勧めて断られたことがある。

ということが分かった。

対応
どうしよう…

① 学校が「できること」「困っている（心配している）こと」を整理する

できること

- ・Aさんに話を聴く。（困りごと・気持ち・願い等）
- ・保護者に日頃の様子を聴く。
- ・具体的な方針と対応を考え、校内で役割分担する…等

Aさんの学校生活を支えるための校内体制を考えていく。

困っている（心配している）こと

- ・「消えていなくなりたい」Aさんに、どのように関わればよいか？
- ・Aさんはどのような状態？
- ・保護者に余裕がなく、相談することにためらいがあるが、Aさんのために、何か福祉的な支援の手立てはないかな？

これらのことについて、**関係機関に相談してみよう**
Aさんの通院先／子供家庭支援センター
（身近な支援機関）

② 関係機関とつながる

医療機関との連携

まずは保護者に…

●通っている機関との連携の了解をとる



担任

「学校でのAさんへの関わりを考えたいので、医療機関と連絡をとってもいいですか？」



保護者

（学校はAのことを大切に考えてくれているみたい）
「よろしくお願いします。」

主治医に… 保護者から了解を得ていることを伝えた上で

- 子供の気になる様子を伝え、子供の見立てや方針を聞く
- 学校での対応を相談する



養護教諭

「授業中、ふらっといなくなったり、『消えたい』と言うので心配です。欠席も増えています。学校はどんなことをすればよいでしょうか。配慮することがあれば教えてください。」



主治医

「Aさんは～といった状態で、消えたい気持ちの背景に…があるようです。教室にいるのがつらい時に、校内でどのように過ごせるとAさんが安心感をもてるのか、本人と話し合ってもいいですね。」

子供家庭支援センターとの連携

子供家庭支援センターに…

- 子供に関する心配を伝え、学校が困っていることについて相談する
- 機関へのお願いを明確にし、一緒に支援して欲しいと伝える



管理職

「家族のお世話に疲れて欠席が続く、心配な子供がいます。保護者は相談に行く余力がありません。子供のために、家庭を支えられる方法はありませんか？何か福祉的な支援の手立てがあれば、教えてください。」



子家セン

「ヤングケアラーの可能性もありそうですね。子供や保護者が困っていることはありませんか？生徒が落ち着いて勉強する場所がなく、困っているなら、居場所を一緒に探すことができます。保護者は登校できない子供を心配しているものの、相談に行く余裕がなければ、私達が訪問します。地域担当は●●、連絡先は▲▲です。親子どちらでもよいので、気軽にご相談ください。」

Aさんに…／保護者に…

- それぞれの困りごとを聴き、関係機関でできる支援の手立てや連絡先を伝える
- 相談することに不安がある場合は、心配や不安な気持ちを十分に聴く

③ つながり続ける

学校から…

- 日頃の情報を集め、関係機関に働きかける 例) 情報共有の機会の提案、次の連絡の約束 等



養護教諭

「Aさんと校内での過ごし方を話し合えた後は、落ち着いて過ごせる日が出てきました。ありがとうございました。今度、修学旅行があります。その際に気を付けることについて、ケース会議をお願いできませんか？」



主治医

「分かりました。Aさんの受診に同行していただく方法や、学校だけで来院していただく方法もあります。どちらも家族の理解が必要です。今後の調整は、当院のソーシャルワーカーとお願いいたします。ソーシャルワーカーは…（続く）」

※初期の段階から窓口がソーシャルワーカーという医療機関もあります。

学校から…

- その後も続いている、子供や保護者の困りごと・学校の心配を共有する



管理職

「先日、子供が電話したら、話を聞いてもらえたとうれしそでした。ありがとうございました。今日は、親から『困りごとを伝えてもよい』という同意がとれたので連絡しました。（子供の名前を伝える）今度修学旅行があります。保護者は、Aさんを修学旅行に参加させたいのですが、その間、家族の面倒を見る人がいなくて困っているようです。何が活用できる手立てはありませんか？」



子家セン

「具体的な方法をお伝えしたいので、『直接話したい』と、保護者にお伝えいただけますか？連絡先は▲▲で、■曜日は在庁しています。こちらも学校に聞きたいことがあって…（続く）」

④ 子供や保護者を一緒に支援する関係へ 協力関係を築いていくためのポイントをCheck

- 関係機関と助け合えると、専門的な知識や情報を、校内での関わりに生かすことができます。
- 学校がキャッチしている子供や保護者の気持ち・困りごとが、関係機関に十分伝わると、関係機関は、子供や保護者にとって適切なタイミングで必要な支援をしやすくなります。

☆関係機関と上手に連携するためのポイント☆

つながる

- Point**
- 関係機関に協力して欲しい事柄を明確にする
 - あきらめずに連絡をする

コツ1 連携したい機関や支援ニーズを明確にする

- ・ 子供／保護者／学校 誰が何に困っているのか整理する
→それぞれニーズが違う
- ・ 保護者や子供の困りごとが明確になるまでに、時間がかかることもある → 焦らず、気持ちを聴くことから始める

2 つながる糸口となる情報を集める

子供と保護者の・・・

- ・ 今の状況に対する心配や不安
- ・ どうなりたいか？どうしたいか？といった、願い
- ・ それぞれのいいところ
ex.「関わりに余裕がないが子供への愛情がある」保護者
「今はエネルギーがないが、人と関わりたい」Aさん

3 連絡の入れ方の工夫

- ・ これまでの学校の対応を伝える
→ 学校の支援ニーズが伝わりやすくなる
- ・ 上手くいかない時には・・・相談から始める
ex. 学校での対応の仕方、親子に適した専門機関、保護者や子供に機関を勧める時の伝え方や注意点について

4 活用できる機関の情報を集めておく

- ・ 関係機関リストやポータルサイトの活用
- ・ 連携がスムーズにいくために、機関に聞きたいこと
ex. 機関の担当者、連絡が付きやすい曜日や時間帯、その機関ができるサービス、申し込み方法

つながり続ける

- Point**
- 保護者・子供の様子や変化を関係機関と共有する
 - スムーズな連携のために、学校から積極的に発信する

コツ1 様子や変化のキャッチ

行動面の他、こんなところにも着目を！

- * 体調や身体面：睡眠、食欲、服装・・・
- * 気持ちの面：願い、心配や不安・・・
- * 関係性の変化：親子関係、友達や先生との関係

2 機関へのごまめな連絡

- ・ 学校でとらえた様子の共有
ex. 現在の様子や変化、保護者や子供の機関連携に対する気持ち、引き続いている心配事 等
- ・ 定期的な連絡の場や機会の設定
ex. 次の連絡の日時やタイミングの提案

3 良い関係を目指す

- ・ 関係機関に、支援してくれたことへの謝意と支援による親子の変化を伝える
- ・ 学校と親子との信頼関係も大切にする
ex. 今後も一緒に考えていく姿勢を示す
親子のペースを大切にする

お気軽に御相談ください。

東京都教育相談センター



教職員等からの専用回線 ※匿名の御相談も可能です。

受付時間：平日午前9時～午後5時
(第2・第4水曜日午前9時～午後9時)

03-3360-4160

事例検討会（ケース会議）の助言者

- ・ 校内で対応に苦慮する子供との関係の築き方（自傷・他害・集団逸脱など）の助言 など
- ・ 関係機関との連携会議への同席

研修会の講師（都立学校・区市町村教育委員会等への派遣）

- ・ 教育相談の基礎・基本
- ・ 発達障害のある子供の理解と支援
- ・ 自傷・希死念慮のある子供の理解と支援 など

ホームページは

[こちら](#)



社会福祉士等の
専門職が
アドバイス
します！

東京都 ヤングケアラー 相談ダイヤル ※教職員向け専用回線

受付時間：平日
午前9時～午後5時
(土日・祝日除く)

03-5320-7785